

# さやだより



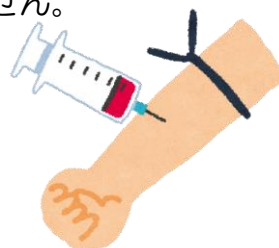
平成29年10月号

## 今月は“血液検査”について

### ◆血液検査は何のため？

健康診断を受ける時や病院を受診した時に行う血液検査。ちょっと痛くて煩わしいですが、どのような目的があるのかちょっと考えてみると少し見方が変わるかもしれません。

血液検査はまず、**病気かどうか、何の病気かを知る手掛かりになります。**  
お薬が処方される時も**血液検査の結果を見て薬の量が決まる場合があります。**  
服薬を続けながら次の受診日を迎えた時に行う血液検査では、**薬の効果が  
出ているか？副作用が出ていないか？**を確認しているのかもしれません。

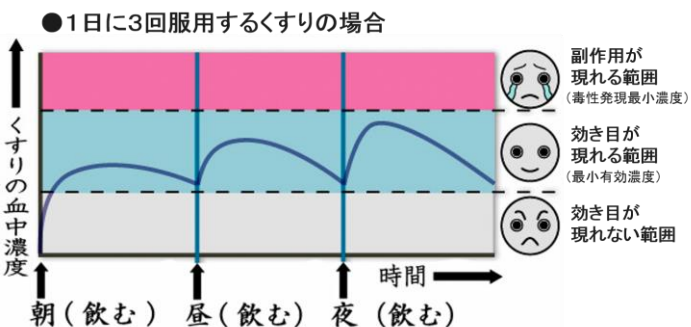


このように薬とも関係が深い血液検査ですので、薬局でお薬をお渡しする際に、血液検査の結果をお尋ねする場合があります。また、最近では処方箋に薬の名前と共に血液検査の結果を記載する病院もあります。今後は薬を安全に使うためにこのような取り組みをする病院が増えていくかもしれません。

### ◆薬の血中濃度！

血液検査の目的の一つに薬の血中濃度測定があります。

多くの薬は服用後、腸から吸収されると血液中に溶けて全身にいきわたります。血液中に溶けている薬の濃度を**血中濃度**といいます。下のグラフのように、血中濃度が高すぎると薬が効きすぎて副作用が出やすくなりますし、血中濃度が低すぎると効果がありません。

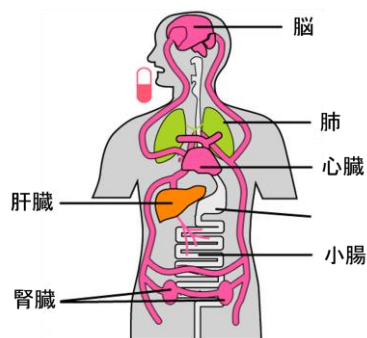


日本薬剤師会：くすりの正しい使い方より

効き目が現れる範囲(青色部分)が狭い薬は細かな用量調節が必要なため、血液検査で測った**血中濃度**を見て、ちょうどよい値になるように薬の量を調節する場合があります。

### ◆腎機能と肝機能！

多くの薬は体内に入ると、溶けた成分が腸から吸収→肝臓で代謝→肝臓から胆汁とともに便に混ざって排泄または腎臓から排泄という経路をたどるので、腎機能や肝機能が低下していると薬の成分が蓄積されて副作用が出やすくなります。



日本薬剤師会：くすりの正しい使い方より

そこで、腎機能や肝機能が低下している場合は、あらかじめ薬の量を減らして処方されることもあります。また、逆にお薬の副作用で腎機能や肝機能が低下した場合も検査結果を見て薬の量を調節するかもしれません。ですから



薬を処方する前やお薬を服用中に、血液検査で腎機能や肝機能をチェックしておくことがとても大切なのです。

# ◆主な血液検査項目

※ 検査機関によって基準値が若干異なるため、ここには基準値を記載しませんでした。検査結果のお知らせに記載された基準値を参考にさせていただきます。

## 血球検査

WBC：白血球数 RBC：赤血球数  
Hb（ヘモグロビン）：鉄欠乏の指標  
Ht（ヘマトクリット）：赤血球の割合  
MCV・MCH・MCHC：貧血の形態判別  
PLT：血小板数 血沈：炎症の指標

## 血糖検査

BS：血糖値  
HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）  
：過去1～2か月間の血糖平均  
GA（グリコアルブミン）  
：過去1～2週間のコントロール状況

## 脂質検査

T-C：総コレステロール  
HDL-C：善玉コレステロール  
LDL-C：悪玉コレステロール  
TG（トリグリセリド）：中性脂肪

## 肝機能検査

AST (GOT)・ALT (GPT)：肝酵素  
LDH・ChE・ALP：肝臓に多い酵素  
γ-GTP：アルコール性肝障害の指標  
ALB（アルブミン）：たんぱく質  
T-Bil（総ビリルビン）：黄疸の指標

## 腎機能

BUN：尿素窒素 Cr（クレアチニン）  
eGFR：推定糸球体濾過量  
UA：尿酸

## 電解質検査

K（カリウム） Na（ナトリウム）  
Cl（クロール） Ca（カルシウム）

## その他

CK または CPK：筋肉系酵素  
AMY（アミラーゼ）：すい臓に多い酵素  
CRP：感染の指標 RA：リウマチ  
各種腫瘍マーカー

# ◆血液検査結果の見方と注意！

### ① 基準値(基準範囲)とは？

基準値は健康な40歳代成人の95%が該当する値を示しています。性別、年齢、検査機関によっても基準値は異なります。

### ② 条件によって検査結果が変わる！

空腹時か？食後か？または前日の食事や飲酒、疲労度によって検査結果が変わります。検査前に検査の条件をよく確認しておきましょう。

### ③ 検査結果の数値の横にある記号はなあに？

検査結果の数値の横に書いてある「H (High)」または「↑」は基準値より高いことを意味し、「L (Low)」または「↓」は基準値より低いことを意味します。基準値からどれくらいずれているか？上昇傾向（または下降傾向）かどうか？も重要ですので、数値だけを見て自己判断せず、気になる場所があれば医療機関で質問して確認するようにしましょう。

### ④ 血液検査だけを見て判断しない！

医師は血液検査以外の検査結果も組み合わせて診断をくだします。血液検査の結果だけを見て心配し過ぎないようにしましょう。

### ⑤ 治療の際は目標値を確認しておこう！

治療する際は検査結果が基準値内に入ることだけが目標ではありません。目標値は病気の重症度や合併症によっても異なります。気になる検査値は治療目標を医師に確認しておきましょう。

### ⑥ 気になるときは相談しよう！

分からない検査項目や気になる検査結果は、遠慮せず医師・薬剤師に相談しましょう。

